

《文化部門行事 地域資料活用研修》

※行事全体の主旨

地方の中核都市として、伝統文化の継承と活用について今後の都市計画に専門的な知見を持つ人材は必須である。経済・文化両研究部門において、それぞれ地域資料や地域の伝統文化、地域の経済活動について、専門的な知見を持つ地域の人材を講師として招いて、学生、及び地域の若年者に対する研修を実施する。

▲第1回 備後の古墳時代—加茂町の古墳を通して 青木ゼミの井伏鱒二生家付近の古墳探索 (2022・5・21)



これから古墳探索へ、篠原先生の説明を受ける



井伏鱒二生家の裏山の中腹で発見された古墳

- ① 主旨 1号館教室にて、備後における歴史の起源に遡り、古墳時代の備後の生活について、今年度の加茂町での実地調査を踏まえて専門家が解説した。資料として、古墳から発掘された遺物の紹介も行った。
- ② 日時・場所
日時 2022年7月20日(水) 15:00~16:20
場所 1号館 01106 教室
- ③ 講師 元(財)広島県教育事業団事務局 埋蔵文化財調査室長 篠原 芳秀氏
- ④ 参加者 本学学生 10名
- ⑤

※本研修の成果を活用した学生活動

青木ゼミ4年生 関谷香菜さん(盈進高校出身)が、「福山大学・福山平成大学と備後圏域高等学校の合同研修会」(令和4年10月1日 社会連携推進センター9f903にて実施)における学生発表で、「井伏鱒二の郷土観」と題するビデオ発表(ppt 動画)を行った。(実地調査は、中国新聞朝刊 2022年8月3日「井伏鱒二の「故郷観」加茂の古墳群から探る 福山大生、エッセー基に調査」として報道された。)

実地調査

● 郷里風土記

「南向きの斜面には古墳の集団がよく見つけた。私も子供のとき裏の山で幾つとなく古墳を発掘し、土器をたくさん所有して遊戯のときに使用した」

● 土井古墳群

第一号古墳 10~15分程登った林の中
第二号古墳 急な山の斜面上



【人間文化学】フィールドワークによる文学探訪—井伏鱒二の郷里に探られた古墳を語る—福山大学 okuyama-u.ac.jp

関谷さん作成のスライド

▲第2回 備後の偉人 窪田次郎の地域活動の原点を探求する—父・亮貞の手記を通して



窪田亮貞の日記について解説する
菅波哲郎氏

- ① 主旨 備後の偉人・窪田次郎の地域貢献の原点として、父・亮貞の日記を通して学ぶ。中学高校の総合学習の時間における地域学習での活用を目指している。 高校生の参加申し込みはコロナ感染状況の悪化で、参加辞退となった。
- ② 日時・場所
日時 2022年11月5日(土) 14:00~15:20
場所 学校法人福山大学社会連携推進センター 3 F 301
- ③ 講師 菅波哲郎氏(元広島県立歴史博物館副館長)
- ④ 参加者 現・元高校・中学教諭などを含む一般15名 学生1名
- ⑤ 参加者の感想から

菅波先生は葦陽高校の時の同僚でした。資料集めと分析はすばらしい。今回は、直接の紹介があり、生徒3名と参加しようと張り切っていました。今後は、ぜひとも若い高校生と参加したいです。(某高校教員の方)



窪田邸跡地で調査中
の藤原君

※本研修の成果を活用した学生活動

青木ゼミ4年生藤原悠太君(神辺旭高校出身)は、「窪田次郎における地域貢献への道筋—父祖からの継承を中心に—」と題して、卒業論文を執筆。この成果は、「サンサンメルマガ」次号に原稿を発表、企業懇談会(令和5年3月13日(月)社会連携推進センター)で、発表した。